

平成31年1月9日

福島大学、最先端機器の外部利用開始へ

福島大学では、2019年1月より、本学保有の研究設備を学外者へ一時貸出しする制度を始めます。これは、福島大学に設置されている分析装置および設備を学外機関へ低料金で開放し、企業・他大学の研究者・技術者を支援することが目的です。まずは、2018年11月に導入された、イメージング質量分析装置の一時利用から開始し、将来的には他設備の利用も検討していきます。

本制度を通し、将来的に本学教員との共同研究へ発展することも視野にいれております。使用料は該当設備の維持管理に必要な保守料等に充当する予定で、今後も設備の有効活用とともに、外部の方の研究、技術開発支援を目指します。

【背景】

福島大学では、研究・教育の一環として最先端の機器、設備の保有がなされています。近年は、これら機器・設備類を学内だけでなく、幅広く学外の方々にも利用していただくことは、地域の技術開発の向上、ひいては我が国の科学水準の発展に寄与することになるものと考えております。

【制度について】本学利用制度の概要を下記に示します。



【開放設備】

今回開放する設備は、東北では初、日本では4台目となる「イメージング質量分析装置」となります。これは、食品分析、病態解明、薬物動態、高分子分析（工業基板の可塑物質分析）など幅広い分野で、何が、何処にあるのかを視覚的に理解することができる装置です。また、通常の質量分析としても使用でき、既存装置よりも感度・精度共に良く測定することができます。

・装置名：rapifleX[ブルカー社（ドイツ）製]

マトリクス支援型レーザー脱離イオン化質量分析装置

(用語解説)

イメージング質量分析：サンプルのどこに何があるのかを2次元的に可視化する方法

質量分析：物質をイオンにして重さ（質量）を測定する方法

(お問い合わせ先)

食農学類設置準備室副室長・准教授 平 修

メールアドレス:staira@agri.fukushima-u.ac.jp